



地域活動室

## 地域の方が気軽に立ち寄れる場所

町田の東の玄関口、鶴川で交流の拠点となっている場がある。鶴川市民センター内にある地域活動室だ。ボランティアスタッフが常駐し、地域の情報発信やスマホ教室、フードバンクなどの活動を行っている。

そこで活動するボランティアの一人が長谷美紀さん。4人の子どもを育てながら参加している。「高齢者の居場所づく

り、子ども食堂などの活動を通して地域の仲間づくり・居場所づくりを目指すNPO法人コミュニティフレンドの活動を手伝ったことがきっかけで地区協議会での活動に誘われました。そのNPOが子連れで参加してもOK、というゆるい感じだったので、無理なく続けられたのが良かったのかも。」と笑う。地域活動室だけでなく、毎月第3水曜日に和光大学

ポプリーホール鶴川で開催される地区協議会のイベント「3水スマイルラウンジ」でも活動しているという長谷さん。子どもから高齢者まで、多様な人たちと出会い、話をすることで良い刺激をもらうという。「特に、高齢の方でスマホ教室にいらっしゃる方の意欲がすごい。元気をもらえます。地域でゆるやかなつながりが生まれるのも魅力です。」と目を輝かせる。日々の生活においても、活動を通して知り合った人と道端で挨拶を交わすという新たな喜びが生まれた。

地域活動室での活動を知らない人は、まだまだ多い。以前は、地区協議会で開催するお祭りやハロウィンイベントで周知していたが、コロナ禍の今は難しい。それでも、口コミで来場者数は徐々に増えているという。「来た人からは、『こんなに素敵な場所があったのね』と言われます。もっと多くの人に知ってもらいたいです。」と語り、今後の新しい出会いを楽しみにしていた。



ポプリーホール鶴川で開催される3水スマイルラウンジ。スマホ教室に訪れる高齢者に、使い方を丁寧に教えている。



オープンガーデンの花壇。

## ものづくりから笑顔が咲く

「本当に住みやすい街大賞2022」第3位の多摩境エリアが位置する小山・小山ヶ丘地区。多摩境通りを東に進むと「工業のまち」がある。まちだテクノパークだ。

まちだテクノパークは、ものづくりでトップクラスの技術を持つ企業が集まった工場団地。異分野の企業が共同で研究、開発を行うことで「まちだ

シルクメロン」のような新商品を生み出すイノベーションを起こしている。

まちだテクノパークには管理、運営などを行う組合組織、多摩高度化事業協同組合がある。そこで専務理事を務める菅野英昭さんはテクノパーク内の事業サポートや広報活動など多くの業務を行いながら、地域が賑やかになるために尽力している。



「もともと我々は町田、相模原、八王子、川崎とばらばらでしたが、工場は『煩い』『汚い』など良くないイメージを持たれがちなため、この工業団地に集まりました。また良くないイメージが先行してしまうと出ていくところがありません。ここに来たとき地域の方々と親密になろうと思い、テクノパーク祭りを開催したり、マルシェ、フードドライブと様々な活動に取り組んできました。」

小山、小山ヶ丘地区の代表的な取り組みであるオープンガーデンにも参加している。オープンガーデンは、毎年4月か

ら5月に各所で丹精こめて手入れした個人の庭などを公開するイベントで、スタンブラリー形式で巡れるようになっている。「この地域ではこんなことをやっているんだと感心し、ぜひ参加したいと思いました。個人宅とは違い、テクノパークに誰かが常駐しているわけでないため手入れが大変でしたが、周囲の協力もあり続けられています。」と菅野さん。

2021年度は新型コロナウイルスの影響で、開催直前でオープンガーデンは中止になってしまったが、「毎年楽しみに

来てくれる人がいます。一人ひとりの声がとてもうれしいです。」と独自で花壇を公開した。まちだテクノパークはこの地域に欠かせない存在になっている。



テクノパークのロータリーの花壇。オープンガーデンの開催に合わせて、花が咲き誇る。

